



NCJTA NEWSLETTER

北加日本語教師会

発行/編集 Northern California Japanese Teachers’ Association
<https://ncjta.org/>

会長挨拶 伊藤潤子

会長挨拶



Contents

- 会長挨拶／春の例会のお知らせ: P.1-2
- NCJTA 会計から: P.3
- 春の役員会議事録: P.3
- 秋の例会報告: P.3-4
- 勉強会の報告: P.4-6
- 「ベイエリアで日本語を教える」: P.6-7
- 領事館からのお知らせ: P.7
- Japan Foundation LAからのお知らせ: P.7
- 北カリフォルニアのイベント情報: P.7
- 先生の紹介: P.8
- 私の学校でこんなことが！: P. 9-10
- 役員の連絡先: P.11

春の日差しが待ち遠しい今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年の冬は異常気象で激しい雨、強風、大雪に見舞われ、洪水や停電などの被害が数多くありました。皆様は大丈夫でしたでしょうか。お忙しい毎日をお過ごしのことと存じますが、どうぞご自愛くださいませ。

北加日本語教師会では今年大きなイベントを三つ開催する予定ですので、お知らせ致します。

#1：春の例会 ＊詳細については、page 2をご覧ください。

日時：4/22（土） 1-4 pm (PDT)
テーマ：「パンデミックを乗り越えて：パフォーマンス・アセスメントと効果的なフィードバックを通しての学習指導」
講師：齋藤-アボット佳子先生（カリフォルニア州立大学モントレイ校）
参加費：無料（会員）
フォーマット：Zoom

#2：秋の例会

日時：10/14（土） 1-4 pm (PDT)
テーマ：「区別化授業（differentiated instruction）」
講師：知念聖美先生（カリフォルニア州立大学ロングビーチ校）
参加費：無料（会員）
フォーマット：Zoom

#3：Foreign Language Association of Northern California (FLANC) Conference

日時：11/4（土）
参加費：NCJTA 会員は割引で10ドル（10/4まで） 65ドル（10/5～）
日本語関連の発表のフォーマット：Zoom
日本語関連の発表（予定）
Session 1 (9-9:50 am) “Teaching Japanese honorifics: How they can be taught better” Taranee Cao (Stanford University)
Session 2 (10-10:50 am) “Exploring student engagement with written corrective feedback: A classroom case study of JFL learners” Jun Takahashi (Colby College)
Keynote Speech (11 am -12 pm) Speaker: Ms. Ann Jordan (AATJ Past President)
Session 3 (1-1:50 pm) “Let’s Talk about LGBTQIA+ Communities and Social Issues in Japanese Language Classrooms” Nobuko Koyama (University of California, Davis)
Session 4 (2-2:50 pm) “Expressing Subjective Judgments and Evaluative Feelings in Japanese: Japanese-language Learners’ Acquisition of <i>te-shimau</i> for Implying Disappointment” Masahiko Minami (San Francisco State University)

その他に、秋にはレベル別の勉強会も予定しております。2023年度の会費をまだ納めていらっしゃる方は是非、お早めにお済ませくださいませ。2023年も北加日本語教師会をどうぞ宜しくお願い致します。

北加日本語教師会 春の例会のお知らせ

今年度の春の例会は 4月 22日（土曜日）にオンラインにて開催されます。「パンデミックを乗り越えて：パフォーマンス・アセスメントと効果的なフィードバックを通しての学習指導」と題して、カリフォルニア州立大学モンテレーベイ校の齋藤-アボット佳子先生にお話ししていただきます。齋藤-アボット先生は全米日本語教師会（AATJ）の元会長で、現在もProfessional Development Directorとして幅広くご活躍なさっています。齋藤先生のワークショップは、いつも和やかな雰囲気の中で多くのことを教えていただけます。どうぞ奮ってご参加ください。参加ご希望の方は、事前登録の上、無料でご参加いただけます。非会員の方は、当会のウェブサイト（<https://ncjta.org>）にて、会員になっていただく必要があります。春の例会で皆様にお目にかかれるのを楽しみにしております。

テーマ：
「パンデミックを乗り越えて：パフォーマンス・アセスメントと効果的なフィードバックを通しての学習指導」“Overcoming the Pandemic Impact: Lead Learning through Performance-based Assessments and Effective Feedback”

講師：
齋藤-アボット佳子先生
(California State University, Monterey Bay, AATJ Professional Development Director)

日時：4月 22日（土曜日）1 pm - 4 pm (PDT)

参加登録のリンク：<https://forms.gle/fMhMBrCEswphDaaQ7>

参加登録の締め切り：4月18日（火曜日）

フォーマット：Zoom
（参加者の方々には、4月20日（木曜日）にZoom リンクをメールでお送りします。）

スケジュール：
1:00 pm - 1:10 pm 会員の方へのお知らせ
1:10 pm - 2:25 pm セッション 1
2:25 pm - 2:35 pm 休憩
2:35 pm – 3:50 pm セッション 2
3:50 pm - 4:00 pm 終わりの挨拶

発表要旨：
Based on a recent survey the AATJ and JFLA conducted, it has become evident that teachers face concerns about their student’s performance, especially in productive skills such as speaking and writing interpersonal and presentational modes of communication. How do we help students’ journey to proficiency as we reach the end of the pandemic? What challenges are we facing in evaluating students’ performance? How do we design performance-based assessments and provide effective feedback to promote their performance? In this workshop, teachers will explore and engage in discussion on the process of designing performance assessments, their challenges, and solutions.

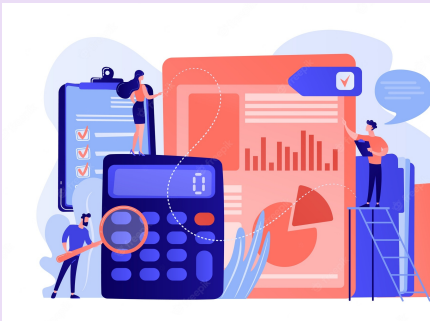
AATJとJFLAの最近の調査でスピーキングやライティングのアウトプット技能 の低下への懸念が明らかになりました。パンデミックで遅れをとった学習者の日本語能力の向上のために教師は何ができるのでしょうか。また、パフォーマンス・アセスメントと効果的なフィードバックを通しての学習指導にはどのような課題があるのでしょうか。学習者のプロフィシエンシーを高めるためにパフォーマンス・アセスメントをどのようにデザインし、どのようにフィードバックを行ったらより効果的なのでしょうか。このワークショップでは、これらの点について話し合いながら、実際にパフォーマンス・アセスメントを作成する過程で教師が考慮すべきこと、解決すべき問題について参加者の皆様と掘り下げていきます。

齋藤先生から会員の皆様へのメッセージ：

カリフォルニア州立大学モンテレーベイ校の齋藤-アボット佳子です。NCJTAの春の研修会ではパンデミックの終焉を迎えるにあたり、パンデミックが学習環境に与えた歪みを乗り越え、どのように学習者の総合的な言語運用能力を向上させるかについて、アセスメントの目的、在り方、作成の仕方、効果的なフィードバック方法等、皆様と一緒に考え、それに関連する課題や、取り組み方などについて話し合いたいと思っています。皆様との活発な意見交換を持てる時間を楽しみにしております。



NCJTA会計から



春の役員会議事録



NCJTA 会計から

NCJTAの年会費は、一般16ドル、学生6ドルです。2023年度の会費（2023年1月1日から12月31日まで有効）を未納の方、もしくは新会員の方はオンライン(<https://ncjta.org/membership.html#howto>)で申し込みの上、PayPal (ncjtap@gmail.com) かクレジットカードで納入をお願いします。なお、AATJとNCJTAのDual Membershipになられた方も、以上のオンラインで申し込みの上、AAT J会費納入のレシートを会計担当(ncjta21@gmail.com) に転送をお願いします。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。また、お支払いに関してご質問のある方は会計担当へご連絡ください。

（文責：矢幡・望月）

春の役員会 議事録

日時：2023年2月12日（日曜日）10:30 am -11:30 am Zoomにて

出席者：伊藤、斉藤、望月、矢幡、宮本、森山、南、井上、スロツビー、永田、ジーマーマン（記）

- 秋の例会について
 - カリフォルニア大学ロングビーチ校の知念聖美先生にお願いする。トピックは「区別化授業」で、10月14日（土）1:00 pm – 4:00 pm にズームにて開催する。
- FLANC Conference のサポートについて
 - FLANC Conference は11月4日（土）にハイブリッド形式で開催される。
- 役員改選について
 - 今年の役員改選はオンライン投票でやる。
 - 空席になる役職はニュースレター、ウェブ担当、大学代表（1名）。
- 役員間の連絡について
 - 役員間の連絡手段はメールしかないので、連絡をより円滑にするために様々なルールを設け、またそれを守るよう確認した。
 - 若い役員の方々や新しい役員の方々が積極的に発言できるような、温かい雰囲気を作るためのアイデアについても話し合った。
- メンバーシップの更新について
 - 会員期間は毎年1月1日から始まるが、なかなかメンバーシップを更新してもらえない。早めに更新していただくために具体的に何ができるかを話し合った。
- 外務大臣表彰授賞式について
 - 3月27日（月）公邸にて開催。
 - 参加者：伊藤先生、南先生、永田先生、矢幡先生、井上先生（5名）
- 残りの年間計画の確認
 - 2月
 - 春の勉強会
 - 3月
 - グラントの提出
 - 春のニュースレターの発行
 - 4月
 - 春の例会 4月22日（土）1:00 pm -4:00 pm on Zoom
 - 役員改選

（文責：ジーマーマン）

北加日本語教師会 秋の例会報告

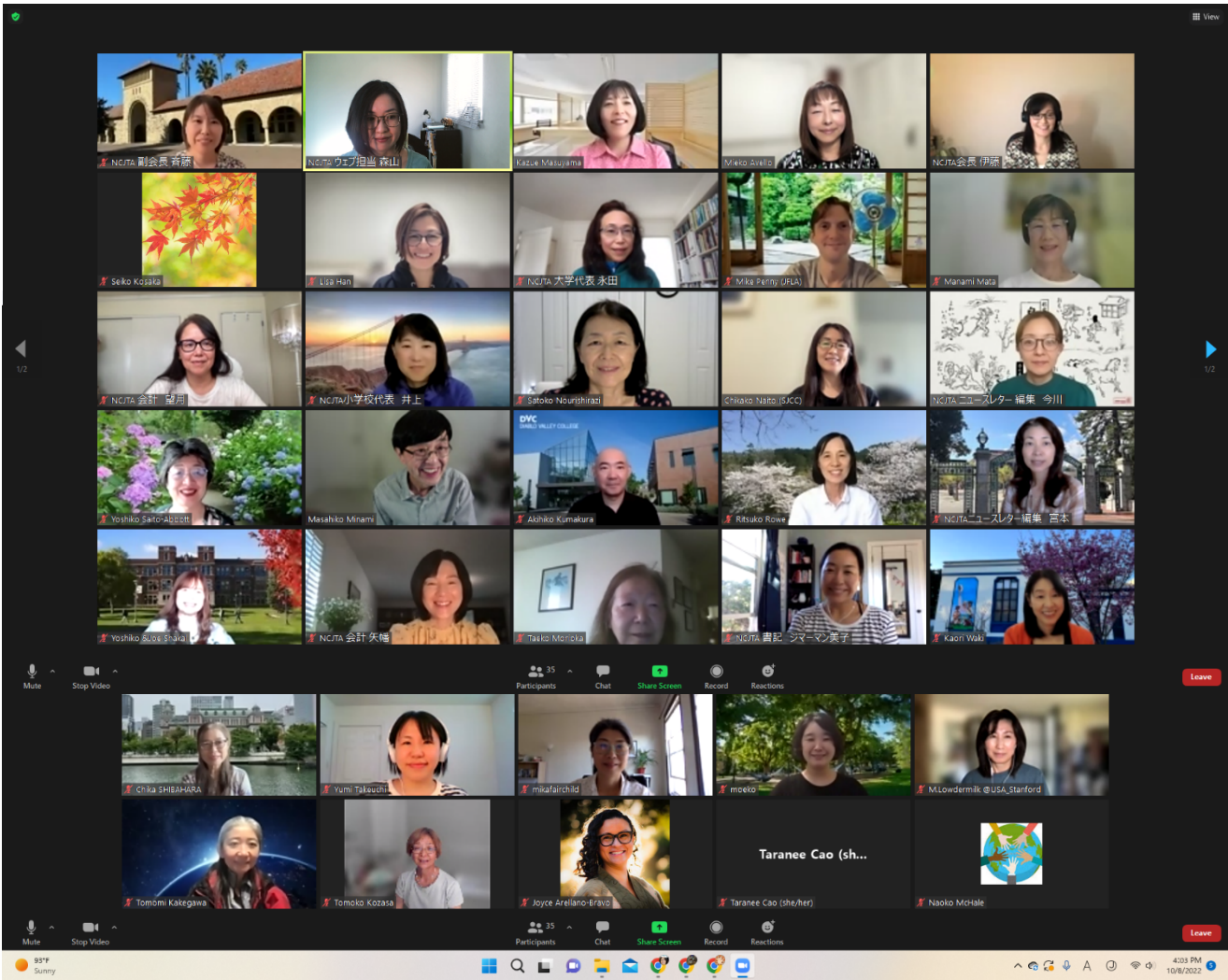
2022年10月8日（土）午後1時～4時の3時間、北加日本語教師会秋の例会がZoom上で行われ、参加者は40名程でした。

「学習者のモチベーション、主体性を育む自己調整学習の試み」をテーマにアベロ美恵子先生（Miami Palmetto Senior High School, Florida International University）と増山和恵先生（California State University, Sacramento）が「自ら学ぶ力」を助ける「自己調整学習」について発表してくださいました。学習者のモチベーション向上にもつながる自己調整学習は、学生が主体となり自分で学習目標を設定し、その目標に向かっての学習環境を整え、フィードバック・ループを作り出し、お互いに助け合いながら学習プロセスを振り返るというプロセスが大切だということを、高校や大学での実施例と共に発表してくださいました。ブレイクアウトルームでのディスカッションの機会も3回設けられ、どんな動機づけをしているか、普段の宿題やアセスメント等の前後活動や内省活動、そしてどのように自己調整学習

北加日本語教師会
秋の例会報告



を授業に取り入れていくかについて参加者が活発に話し合いを行いました。
(文責：ジーマーマン)



第3回 秋の勉強会の報告

勉強会の報告



2022年秋の勉強会は「教師の断捨離：燃え尽き症候群にならないための時短、効率化」というテーマで、11月6日（日）午前10時から11時に、小中高と大学レベルの合同で開催しました。スロツビー先生（高校）と井上先生（小学校）がいろいろなアイデアを発表してくださいました。

まず、スロツビー先生は、退職までのあと6年間をお考えになり、何か教師のストレスを減らし、生徒と楽しく勉強し、かつ学習にも効果的な方法を模索・実践なさっています。例えば以下のような事をなさっています。

- クイズは手書きではなく、なるべくオンラインのマルチプルチョイスで自動的に採点する
- 手書きのグレードブックをなくす
- 紙の上での添削に時間がかかるので、紙で集めるような宿題はしない
- スピーキングの発表は、即興でできるような日々の小さな課題にすると、スクリプトを書かずにできて、直接発話することにも慣れてくる
- 教材を一から自分で作るより、YouTube の動画などをどんどん活用する
- ひらがなを覚えて書く生徒の負担、それを添削する教師の負担をなくすため、ひらがなチャートを渡して、読み・タイプの助けにする
- 音声入力を教材作り、メール、テキストの際に使うと、タイプするよりも時短、労力削減につながる

以上のような時短を目指した効率的な案を発表していただきました。スロツビー先生は、このような策で余裕ができた時間を、生徒との小話にあてられ、例えば昨日何をしたかとか個人的な会話を通じて、生徒との親和をはかられています。

井上先生は、小学校カリキュラムのスケジュールを全て学期が始まる前にオンライン化して、そこには各クラスの学習目的、アクティビティ、教材のリンクを全て記載しておく、それをしておけば、学期が始まってから各クラスの準備が著しく時短できる、というお話をなさいました。

お二人の発表の後、グループ別のディスカッションをして、参加した先生方からも、いろいろな意見や案をいただきました。以下のサイトにグループディスカッションの記録が書かれています。
https://docs.google.com/presentation/d/1ljyYsqI_bFNfFHPicRptkH0vzONCKxO6zgwH7YEcak/edit#slide=id.p

以上、大変有意義な勉強会となりました。
(文責：永田)



第4回 小中高学園レベル 春の勉強会の報告

春の勉強会は、前回秋の勉強会に引き続き「時短・効率化のフォローアップ 11/6の勉強会後のアップデート」と題して、2月12日 にK-12を対象に行われました。7名の先生が参加され、活発に意見交換をさせていただきました。

最初は、1) カリキュラムのオンライン化というタイトルで、Rosa Parksの井上先生より、2019年の夏にFles勉強会にSFUSDより参加した経緯、その後、現状あったRosa Parks小学校のカリキュラムの見直しを行った内容の紹介、秋、冬、春のユニットに分けて、全体のテーマに沿ってK-5thまで横並びにして作成したCan Do Statementの紹介をしていただきました。その後、Can Do Statementに沿って、Activityを作っていく内容を実際に作られたものをシェアしていただきました。カリキュラムを横並びにしたことにより、各学年で教えている内容が明確になり、Can Do Statementがあることにより、生徒も先生も、保護者の方も習得する事項が明確になったそうです。そして、もちろん、時短効率もだんぜんアップしたそうです。

次にスロツビー先生より、2) Google Classroomの活用のシェアをしていただきました。提出物や課題、作ったパケットなどを全てGoogleクラスルームで管理できるようにすると、LESSンプランや印刷物の手間がずいぶん省けたそうです。先生の次の目標は、文法の説明などをloomを使って動画にし、Googleクラスルームに順次上げていくことだそうです。教室での1度だけの説明ではなかなか理解できない生徒や、クラブ活動で休んだ生徒が「自分のペースでよりよく理解できるような教材作り」が必要だと思ったからだそうです。また、断捨離や時短のおかげで多少の心身の余裕ができ、その分、生徒たちとの会話やクラスメートを知るための活動に時間を使えるようになったので、生徒たちの反応やクラスの雰囲気も良くなったのを実感したそうです。対面だからこそできる、人間的なつながりも忘れずに授業をやっていきたい、と感想をいただきました。

以上

井上由佳
NCJTA役員、学園・小中学校代表
スロツビー薫
NCJTA役員、高校代表

第4回 短大・大学レベル 春の勉強会の報告

＊第3回はK-12の勉強会『教師の断捨離：燃え尽き症候群にならないための時短、効率化』に参加
日時：2023年2月26日（土曜日）、午前10時から11時半
トピック：時短・効率化のフォローアップ：書く技能を高める活動にフォーカス

書く技能を高めるアプローチは様々ありますが、今回は永田先生がサンフランシスコ大学の中上級授業で行なっている作文プロジェクトを参考にしながら各自の作文活動を振り返るという勉強会を行いました。

この作文プロジェクトでは、教科書に出てきたトピックを基に、作文活動でそのトピックを発展させていきます。例えば、今回紹介された「伝統楽器」の作文プロジェクトでは、永田先生制作中の日本語中上級教科書『道』の沖縄の章に出てくるの楽器から発展させています。まず、第1段落で三線の特徴をまとめ、第2、3段落でもう一つ日本の伝統楽器、そして学習者の母国の伝統楽器を選んでそれぞれをリサーチし、第4段落で学習者の楽器演奏経験あるいは鑑賞経験を述べる、という四つの段落構成（1週間に1段落を書くペース）の作文活動になっています。ここで重要なのが、各段落を書くために教師が作成する詳しいguiding questionsです。それは、どんな事を調べて書いていったらいいかを詳しく指導していく、スキヤフオールディング活動（作文を書く足場をしっかりと作ってあげること）です。guiding questionsには、どんな内容を書くか項目点を細かく記載していきます。例えば1段落目の三線の特徴をまとめる作文には、以下のような項目を書くことが要求されます。

- (1) First, summarize the characteristics of sanshin. Include the following information.
- Where in Japan and around when was it developed, and what instrument did it become the origin of?
 - What kind of musical instrument is it? (e.g., type, size, shape, materials, sound, any interesting/unique aspects)
 - On what occasions do people play it? (e.g., festivals, events, concerts)
 - What kinds of songs do people sing with the instrument (e.g., traditional folk songs, modern folk songs, pops)?
 - Provide an example video link (YouTube) showing a musical performance with the instrument.

また、作文に使える語彙や例文、リサーチの参考になるサイトなども入れて、なるべく学習者の手助けをします。学習者は詳しいguiding questionsにより、作文活動を効率化し、作文内容を充実させ、質の高い作文を書くことができます。教師はGoogle Docsで学生と作文ファイルをシェアし、その週にできた作文にフィードバックをあたえます。学生は、詳しいguiding questionsに沿って書いてくるので、教師はフィードバックや学習者のエラーコレクションの時間が時短できます。最後に、学習者は完成した作文を手書きで書いて提出します。段階的にフィードバックをもらいながら内容豊かに完成した作文なので、学生のほとんどが作文評価にフルクレジットがもらえます。次に学習者は、自分が

書いた作文を基に、PPTを作成します。ここではPPTのテンプレートが用意されているので、学習者は作文で書いた内容を生かしながらテンプレートに沿ってスライドを作っていくことができます。既に完成した作文に基づいているので、語彙・文型のエラーが最小限になり、ここでも教師がフィードバックに費やす時間が短縮されます。PPTの完成後、学習者はクラスでお互いのプロジェクトをPPTで発表し、意見交換をします。（このようなプロジェクトの発表は、いつもクラスが盛り上がる時間だそうです。）最後に学生は、作文で書いた事を口頭試験の面接でも聞かれます。これまで丁寧に時間をかけて作文を書いてきたし、発表もしているので、それを会話スキルに自然に応用できます。このように、この作文プロジェクトを通じて、まず書く力をつけ、それを発表したり会話したりする力まで伸ばしていき、総合的にInterpersonal, Interpretive, Presentational の力をつけることができます。永田先生は、このアプローチを初級レベルでも適用されています。紹介してくださった例は、『げんき』13課の読み物「私の好きな所」から発展させた「日本で私の行きたい所」という作文プロジェクトです。ここでも学生は、詳しいguiding questionsに基づいて、4段落の作文を書き、PPTを作って発表し、口頭面接をして完了となります。レベルに応じて作文内容を簡略化したり、段落数を減らしたりすれば、どのレベルにもこのアプローチが適用できることがわかります。

このアプローチで、教師にとって一番時間のかかるのはguiding questionsの作成だと思います。それで、永田先生の発表後、初級、中級、上級レベルに分かれて、各グループがトピックを選び（『私と日本文化』『子供時代』『日本の町』など）、既習語彙表現や目標文型を使いながら、内容を豊かにするguiding questions、例文、PPTテンプレートなどを、短時間ではありましたが、考案作成し、それを共有しました。また、作文活動においてChat GPTの使用の可能性に触れたグループもありました。勉強会の参加者から、学生の翻訳アプリ、AIの使用、その際の作文の評価方法など、今後の勉強会で話し合いたいという意見もあったので、それはまた今後の課題にしたいと思います。今回、勉強会の後に時間のある先生方と「おしゃべり時間」もあり、大変有意義な勉強会であったと思います。この勉強会で永田先生が出版予定の教科書の原稿の一部も共有してくださいました。心より感謝いたします。

（文責：増山和恵）



「バイエリアで日本語を教える」前半

私のバークレー教師修行

サンフランシスコからバークレーまで、久しぶりに電車に乗って観劇に出かけました。バークレー駅前、高層アパートが完成しすっかり様変わりしています。時間があったので、懐かしいキャンパスを歩いてみました。

時計台を目指して木立の中を歩いていると、カリフォルニア大学バークレー校で日本語を教えていた時の愉快的感覚が蘇りました。たった数年前のことなのに、コロナ禍巣籠もり生活の後では、まるで「前世」だったような気がします。あの頃、駅を降り Dwinelle Hall のオフィスに着くまで、何人学生を追い越せるかと密かに数えながら早歩きしたものでした。

当時のバークレーはまだチームティーチングを行なっていたので、私には願ってもない最高の学びの場でした。ベテランの先生が快く授業を見学させてくださり、先生方から建設的な講評もいただきました。翌日には、ずっとそう教えていたかのように、伝授されたやり方で教壇に立ったこともあります。（ありがとうございました！）

「学生にもっと質問文を言わせたほうがいいですよ」、授業の始まる前に学生に宿題の答えを黒板に縦書きさせること、そして学期末のオーラルプロジェクトなど、今でも形を変え役立てています。加えて、やる気満々の学生の反応や質問に思いを巡らせたことは数知れません。きっと私は、教えた以上に自分が学んでいたはず。毎日、ぐんぐん背が伸びているように感じていました。



そして、オフィスアワーに来た学生の、ルームメイトとのいざこざに耳を傾け、楽しかった日本旅行報告に声を上げて笑ったこともありました。（「高尾山に行きました。おじいさんとおばあさんがたくさんいました。」）

また同僚が代講を引き受けてくれたおかげで、シカゴ大学で行われた研修に参加、全米から集まった日本語教師と交わりました。そして、バイエリアで教えていたのでは気がつかない問題にも気が付きました。わずか3日間でしたが、アメリカの大学で日本語を教える同志として、旧友のように心を開いて語り会えました。

私が「カリフォルニア大学某校では」と週5回のインテンシブな教授法を披露すると、他校の先生が「我が校でそんな教え方をしたら『お客さん』が来なくなっちゃいます」と悲鳴のような声を上げたことを覚えています。「職を失った時のために、不動産エージェントの試験勉強もしているんです」と打ち明けた言語学博士に、「勉強好きなのは良い教師の証拠」と応えながら複雑な思いがしたことも。

中西部のある大学では、地元に進出している日本企業の後援で日本語プログラムが成立しているそうです。生徒数確保のために、授業の難易度を下げざるを得ないのだと内輪話を聞きました。いかにバイエリアの日本語教育環境が恵まれているか気付きました。

バイエリアで日本語を教えることになった幸運に感謝しつつ、今回は、日本語教育を通じて出会った素晴らしい先生のことを書いてみます。

終わり

清水真佐子（College of Marin）

＊「先生たちのストーリー」にご協力いただける（要はインタビューを受けてくれる）先生はぜひご連絡ください。
mshimizu5378@marin.edu

お知らせ

総領事館インフォメーションセンターからのお知らせ 第56回北加桜祭り

第56回北加桜祭りが、4月8日（土）、9日（日）及び15（土）、16（日）に開催されます。この祭りは、米国内でもワシントンDCの全米桜祭りに次ぐ規模の桜祭りで、1968年からサンフランシスコ日本町で開催されてきました。今年、コロナ禍以来4年ぶりにパレードが復活し、当館も参加予定です。また、最初の週末にはブースも出展する予定ですので、是非遊びにいらして下さい。詳細はこちらをご覧ください（<https://sfcherryblossom.org/>）。

（在サンフランシスコ日本国総領事館 石井 由実子）

Spring News from JFLA!

By Ian Ostoya (Japan Foundation, Los Angeles)

The Japan Foundation, Los Angeles is celebrating forty years of promoting Japanese language and culture throughout the United States! We have a wealth of events and projects planned for this year, including art exhibitions, classes, and film screenings, both online and in-person. As part of our anniversary celebrations, we will be holding a logo contest open to all-ages, including students! Entrants are asked to create and submit an original design that reflects JFLA's mandate to promote international cultural exchange and the spread of Japanese language and culture in the US.

Additionally, we are proud to announce that this year we will be launching *Keishō Nihongo*, a new online platform. In America, children who speak Japanese within the home are considered Japanese heritage language learners. These children may live in areas with little access to Japanese-language classes, much less ones with curricula tailored to their unique experiences and skillsets. To help service their needs, we will be launching an online platform for parents and teachers of Japanese heritage language learners. We continue to offer a variety of free classroom goods available for teachers to order via our advocacy goods page. For more information on the aforementioned material, please visit our website (jflalc.org) and sign up for our Your Japan e-newsletter for future updates.

For direct enquiries please contact us at jflaeducation@jpf.go.jp

北カルフォルニアのイベント情報

- 4月16日に第16回Japan Dayをサクラメント州立大学で10時から3時まで開催いたします。詳しくは<https://sites.google.com/view/jdaysac/2023-j-day>（Free event/Free parking）

第56回北加桜祭り



Japan Foundation Los Angelesからの お知らせ



先生の紹介



武内 由美 先生

- **お名前を教えてください。**
武内 由美（たけうち ゆみ）です。
- **教えている学校名、町を教えてください。**
カリフォルニア大学デービス校（University of California, Davis）で教えています。
- **日本語教師はいつから？**
2014年からです。その前は日本で英語を教えていました。
- **ご趣味は？**
子供がまだ小さく、自分の時間がなかなか取れないのですが、ヨガやクロスステッチが好きです。写真の日本地図はクロスステッチで作りました。
- **日本の出身地は？**
陶芸で有名な栃木県益子町の出身です。
- **アメリカ／カリフォルニアに来てから何年ですか。**
カリフォルニアは7年目です。カンザスやインディアナにも住んでいました。
- **仕事について、何か一言お願いします。**
大変なことも多いですが、それ以上に楽しさややりがいを感じています。学生たちの日々の成長を見て刺激を受け、私も日本語教師として成長していきたいと思っています。
- **会員みなさんへのメッセージがあればどうぞ。**
勉強会や様々な機会でみなさんにお会いできるのを楽しみにしています。



ハン リサ 先生

- **お名前を教えてください。**
こんにちは。ハンリサと申します。
- **教えている学校名、町を教えてください。**
韓国ソウル所在の Asia Pacific International School Seoul という小規模のプライベートスクールで G6-12 の日本語を担当して 4 年目になります。主に日本語 1、4、AP Japanese を受け持っています。ハワイにも分校がありますが、ソウル校のほとんどの生徒は卒業後アメリカの大学に進学しています。こちらの学校は生徒らが西と東の懸け橋になりグローバル市民となることをモットーにしており、World Language は K-12 まで日本語と中国語の二つのコースがあります。
- **日本語教師はいつから？**
大学院を卒業後に、担当教授からの勧めで 6 年ほど韓国の大学や大学院で日本語の講師をしていました。その後、Yongsan International School of Seoul で 9 年間 G9-12 を担当し、4 年前からは現在の学校に至っております。
- **ご趣味は？**
趣味はカフェホッピング、自転車、ベーキング、旅行、美術館巡りそして新しい言語や文化を学ぶことです。韓国にはフランチャイズではない独特なカフェが散在していて、週末に自転車で回ったりしています。また日本語と外国語の対象表現の違いを探すのが密かな楽しみで、街中で聞こえる会話やドラマのセリフに反応して嬉々とするも家族に呆れられています。最近は、中国語とフランス語の学びを楽しんでいます。
- **日本の出身地は？**
広島県広島市出身です。広島といえば、お好み焼き、牡蠣、もみじ饅頭、カープ、マツダ、宮島の厳島神社、そして平和公園などが有名ですが、川と緑の多い美しい街です。平和公園が実家のすぐそばで毎日のように自転車で横切っていました。広島で航空会社に勤務中、韓国語の語学研修がきっかけで韓国人の夫と結婚して韓国に 20 年以上暮らしています。故郷から離れ家族友人からも離れていますが、心はいつも広島人です。
- **アメリカ／カリフォルニアに来てから何年ですか。**
カリフォルニアは 20 代の頃に LA に遊びに行ったことがある程度ですが、AATJ を通じてこちら NCJTA オンライン研修の機会を知り加入させていただき嬉しく思っています。
- **仕事について、何か一言お願いします。**
韓国のインターナショナルスクールで日本語コースが開設されている学校がほとんどないので、PD や交流の機会が限られています。コロナの副産物としてオンラインミーティングが活性化され、今回その恩恵を受けることができました。私はクラスで「日本語と日本文化を通じて視野を広げ、さらに自国の言語と文化を再発見する機会」という点を強調しています。また、勉強や塾ばかりに集中しがちな生徒たちにクッキングや書道などのハンズオンアクティビティを通じてコミュニケーションやライフスキルの価値を見出してもらいたいと思っています。
- **会員みなさんへのメッセージがあればどうぞ。**
今回はこのように誌面を通じて交流の機会を下さいます。ありがとうございます。オンラインでしかなかなかお目にかかれませんがよろしく願います。

私の学校でこんなことが！

'Melting Pot'

モンタギュー直子先生
インターナショナルダンスアート団

今年新年明けて間もなくサクラメント近郊のロックリンの「インターナショナルダンスアート団」の主任の方から小学生の生徒達に歌を通して日本語を教えてほしいという依頼が来て、日本語を教える機会が与えられました。地元の小学生の子供達に日本の伝統的なお正月を知ってほしいと思い、3月上旬に行われる発表会に向かって、「お正月」の歌の練習を始めました。毎回、練習の前にお正月に関する文化や遊びを紹介したり、私の子供のころの話を子供達にしました。歌詞をローマ字で書いたポスターを見せながら、初日は歌詞の発音の練習をして、二回目からはメロディーを入れて、歌の練習に入りました。第一日目から驚くほど発音もよく歌詞も三回目の練習では歌詞も覚えて毎回一生懸命歌ってくれました。練習を重ねるたびに、子供達は「いつか日本に行ってみたい」と目を輝かせて私に言うようになりました。

待ちに待った3月3日（金曜日）に「Melting Pot」というテーマでイベントが行われました。発表会の会場には十数か国の国旗が飾られ、大勢の人が参加して、それぞれの国の家庭料理を楽しんでいました。夕食後、綺麗な民族衣装を着たかわいい生徒達が伝統的な踊りや歌を次々と披露しました。いよいよ「お正月」の歌の番が来ました。一生懸命練習した成果もあって発表会の日には着物ではなく浴衣姿でしたが、子供達全員「お正月」の歌を元気な声で一生懸命歌いました、お年寄りから小さい子供達まで大勢の方々から喝采を受け、会場が盛り上がりました。これからも日本に行く夢に向かって練習に励む子供達を応援していきたいです。



カケハシプロジェクト

マケール尚子先生
デービス高校

デービス高校では、昨年10月28日～29日に、カケハシプロジェクトを通じて沖縄開邦高校の生徒さん達と交流する機会を持つことができました。初日は開邦高校の生徒さんによる日本文化に関する発表、二日目の土曜日には公園でゲームやピクニックをして楽しく過ごしました。交流は、その後もいろいろな形で続いています。



Japanese Language and Culture Connection

川崎李咲さん（JLCC PR担当）
カリフォルニア大学デービス校

カルフォルニア大学デービス校には、Japanese Language and Culture Connection（JLCC）というサークルがあります。JLCCは、日本語を学んでいる学生や日本・日本文化に興味のある学生のために、二週間に一度のペースでイベントを開催し、様々な日本文化を学生に紹介しています。日本語のクラスではあまり習わない日本の一面を、学生に知ってもらおうと志しています。多くの日本人留学生もイベントに参加し、デービスの学生と英語と日本語を両方使って会話を楽しんでいます。

一月のイベントでは、「お正月」をテーマに新年の抱負と年賀状を書きました。初詣やお節料理、また食材一つ一つに込められた意味を学生達に紹介し、「会話タイム」ではそれぞれのお正月の過ごし方について話し合い、大変盛り上がりました。

また、二月には、カルフォルニア大学デービス校の有機農場とコラボ企画のイベントを開催しました。農場で育てられた様々な品種の日本のさつまいもを試食し、さつまいもにちなんだ日本文化を学生に紹介しました。石焼き芋の販売車、いもばん（芋版）、さつまいもがどのようなルートで日本へ伝来したかなどについて話しました。アメリカでは市販されていない珍しい品種の日本のさつまいもを試食し、大変楽しいイベントになりました。



北加日本語教師会
連絡先



NCJTA Officers

<事務局> : <https://ncjta.org>

NCJTA c/o Junko Ito
Department of East Asian Languages and Cultures
University of California, Davis
One Shields Avenue, Davis, CA 95616
Email: jito@ucdavis.edu

<役員>

会長 :

Junko Ito 伊藤潤子 (University of California, Davis)
Email: jito@ucdavis.edu

副会長 :

Momoe Saito Fu 斉藤百恵 (Stanford University)
Email: msfu@stanford.edu

書記 :

Yoshiko Zimmerman ジーマーメン美子 (Shasta College)
Email: yzimmerman@shastacollege.edu

会計 :

Makiko Mochizuki 望月真紀子 (University of San Francisco)
Email: mmochizuki@chabotcollege.edu

Kazumi Yahata-Pettersson 矢幡ペターソン和美 (University of San Francisco)
Email: kyahatap13@gmail.com

ニュースレター編集 :

Kayoko Imagawa 今川香代子 (University of California, Berkeley)
Email: kimagawa@berkeley.edu

Yuriko Miyamoto 宮本百合子 (University of California, Berkeley)
Email: ymcaltabiano@berkeley.edu

ウェブ担当 :

Nanako Moriyama 森山なな子 (Bella Vista High School)
Email: nanako.moriyama@sanjuan.edu

Momoe Saito Fu 斉藤百恵 (Stanford University)
Email: msfu@stanford.edu

FLANC 連絡員 :

Masahiko Minami 南雅彦 (San Francisco State University/Kinmon Gakuen)
Email: mminami@sfsu.edu

<各レベル代表>

学園・小中学校代表 :

Yuka Inoue 井上由佳 (Rosa Parks JBBP Elementary School)
E-mail: choyy@sfsud.edu

Masahiko Minami 南雅彦 (San Francisco State University/Kinmon Gakuen)
Email: mminami@sfsu.edu

高校代表 :

Kaoru Slotsve スロツビー薫 (Kelly Walsh High School, WY)
Email: kslotsve@gmail.com

コミュニティーカレッジ・大学代表 :

Kazue Masuyama 増山和恵 (California State University, Sacramento)
Email: masuyama@csus.edu

Noriko Nagata 永田憲子 (University of San Francisco)
Email: nagatan@usfca.edu